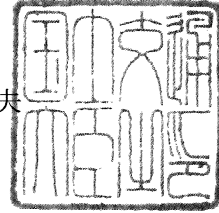


# 認定書

国住参建第 4702 号  
令和 5 年 3 月 29 日

吉野石膏株式会社  
代表取締役 須藤 永作 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号及び同法施行令第 107 条第二号（間仕切壁（非耐力壁）：1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
FP060NP-0258-1
2. 認定をした構造方法等の名称  
強化せっこうボード三枚重張／間仕切壁
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

## 別 添

## 1 構造名

強化せっこうボード三枚重張／間仕切壁

## 2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安定性が確かめられた寸法とする。

## 3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様
① 被覆材	<p>強化せっこうボード</p> <p>規格：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 不燃材料認定番号 NM-8615 (GB-F (V)) 又は JIS A 6901</p> <p>形状：平板</p> <p>表面の形状：平滑</p> <p>端部の形状：スクエア、テーパ又はベベル</p> <p>厚さ (mm)：21 (±0.5) ~ 25 (±0.5)</p> <p>かさ比重：0.75 以上</p> <p>b. 不燃材料認定番号 NM-1498、NM-1498-1 (両面薬剤処理ボード用原紙張せっこう板) のうち、ボード用原紙を除いた部分のせっこうの含有率が 95% 以上、ガラス繊維の含有率が 0.4% 以上、ひる石の含有率が 2.5% 以上のもの</p> <p>形状、表面の形状、端部の形状、厚さ及びかさ比重は前記の a に同じ。</p>
② 下地材	<p>材料名及び規格：a から g のいずれかによる。</p> <p>a. 熔融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302)</p> <p>b. 電気亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3313)</p> <p>c. 熔融アルミニウムめっき鋼板 (JIS G 3314)</p> <p>d. 熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317)</p> <p>e. 熔融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321)</p> <p>f. 熔融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323)</p> <p>g. 一般構造用軽量鉄鋼 (JIS G 3350)</p> <p>形状・寸法 (mm)</p> <p>L-35 (±0.5) ~ 1,000 × 60 (±1.0) ~ 150、厚さ 0.8 (±0.08) 以上</p>
③ 副構成材料	<p>仕様：あり又はなし</p> <p>材料名及び規格：前記の下地材に同じ。</p> <p>形状・寸法 (mm)：a から d のいずれかによる。</p> <p>a. I-10 (±1.0) ~ 60 × 21 (±2.1) ~ 90、厚さ 0.2 (±0.02) 以上</p> <p>b. L-10 (±1.0) ~ 60 × 21 (±2.1) ~ 90、厚さ 0.2 (±0.02) 以上</p> <p>c. T-40 (±4.0) ~ 65 × 21 (±2.1) ~ 90、厚さ 0.4 (±0.04) 以上</p> <p>d. その他：厚さ 0.2 (±0.02) 以上の加工鋼板</p>

項	目	製 品 仕 様
③ 副 構 成 材 料	留付け材	<p>下張り材取付け用            タッピンねじ            寸法(mm)：<math>\phi 3.5 (\pm 0.4)</math> 以上<math>\times L32 (\pm 3.2)</math> 以上            留付け間隔(mm)：300 (<math>\pm 30</math>) 以下</p> <p>中張り材取付け用            a. タッピンねじ            寸法(mm)：<math>\phi 3.5 (\pm 0.4)</math> 以上<math>\times L50 (\pm 5.0)</math> 以上            留付け間隔(mm)：300 (<math>\pm 30</math>) 以下            b. 接着剤            種類：下記のいずれかによる。            酢酸ビニル樹脂系、アクリル樹脂系、ウレタン樹脂系、エポキシ樹脂系、ポリアミド系、ポリサルファイド系、シリコーン系、合成ゴム系、せっこう系            又は炭酸カルシウム系            塗布量(<math>g/m^2</math>)：300 (<math>\pm 30</math>) <math>\sim</math> 900 (<math>\pm 90</math>)            c. ステープル            寸法(mm)：幅 4 (<math>\pm 0.4</math>) 以上、長さ 32 (<math>\pm 3.2</math>) 以上            d. タッピンねじ            寸法(mm)：<math>\phi 3.5 (\pm 0.4)</math> 以上<math>\times L32 (\pm 3.2)</math> 以上</p> <p>取付け方法            上記 a で下地材に取付け、b を併用し、c 又は d の一方は 300 (<math>\pm 30</math>) mm 以下の間隔で、他方は必要に応じて任意の間隔で下張り材に取付ける。</p> <p>上張り材取付け用            a. 接着剤            種類：前記の中張り材取付け用接着剤に同じ。            塗布量(<math>g/m^2</math>)：300 (<math>\pm 30</math>) <math>\sim</math> 900 (<math>\pm 90</math>)            b. ステープル            寸法(mm)：幅 4 (<math>\pm 0.4</math>) 以上、長さ 32 (<math>\pm 3.2</math>) 以上            c. タッピンねじ            寸法(mm)：<math>\phi 3.5 (\pm 0.4)</math> 以上<math>\times L32 (\pm 3.2)</math> 以上            d. タッピンねじ            寸法(mm)：<math>\phi 4.0 (\pm 0.4)</math> 以上<math>\times L75 (\pm 7.5)</math> 以上            留付け間隔(mm)：600 (<math>\pm 60</math>) 以下</p> <p>取付け方法            上記 a を併用し、b 又は c の一方は 200 (<math>\pm 20</math>) mm 以下の間隔で、他方は必要に応じて任意の間隔で中張り材に取付ける。必要に応じて d を併用して、下地材に取付ける。</p>

つづく

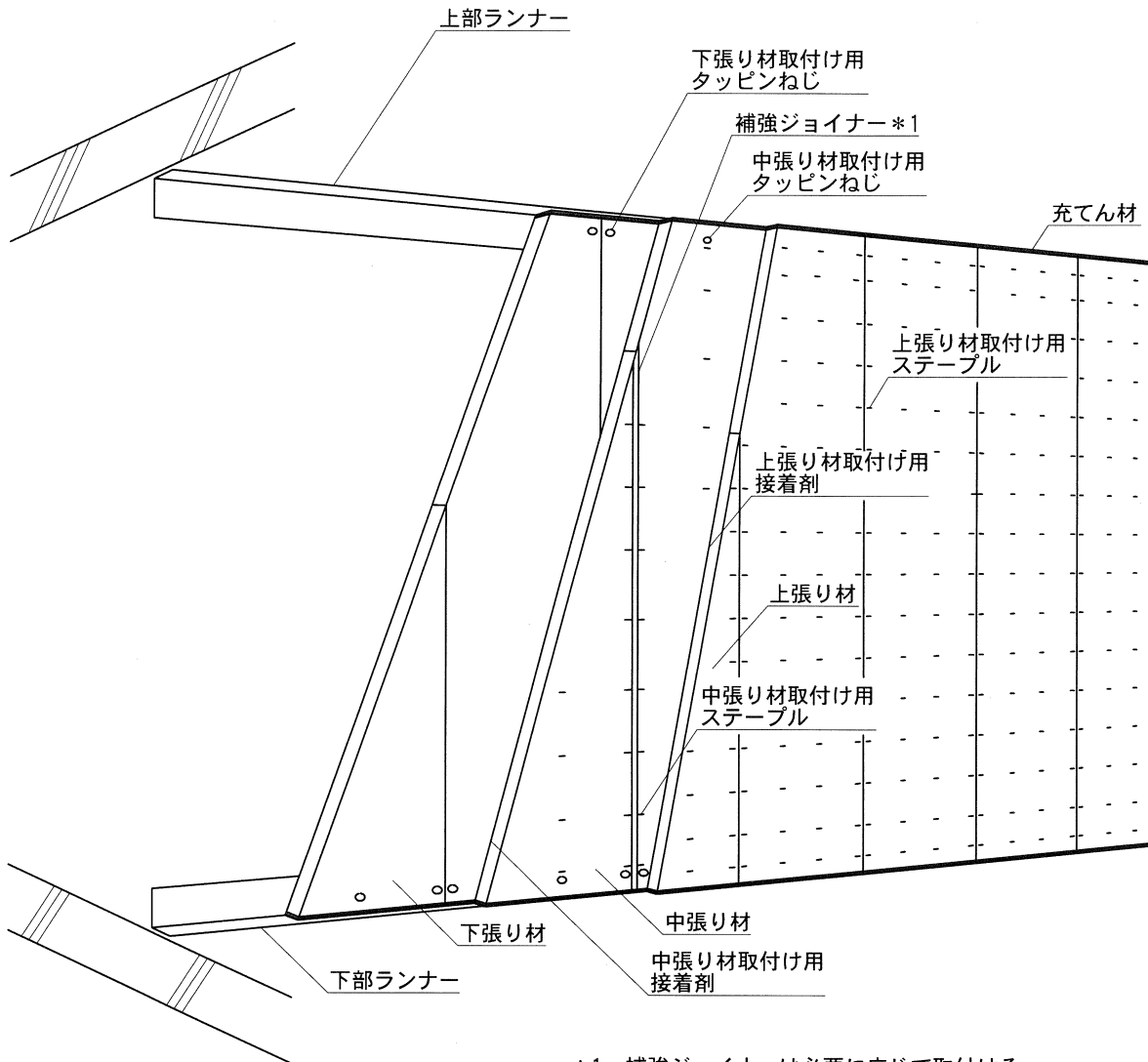
つづき

項	目	製 品 仕 様
③ 副 構 成 材 料	留付け材	<p>補強ジョイナー取付け用 仕様：1) 又は 2)</p> <p>1) なし</p> <p>2) あり (補強ジョイナーを使用する場合に用いる。)</p> <p>a. タッピンねじ 寸法 (mm) : <math>\phi 3.5 (\pm 0.4)</math> 以上 <math>\times L32 (\pm 3.2)</math> 以上</p> <p>b. 粘着テープ又は両面粘着テープ 粘着剤の種類：下記のいずれかによる。 アクリル樹脂系、ポリアミド系、ウレタン系、シリコーン系、天然ゴム系又は合成ゴム系 寸法 (mm) : 厚さ <math>3 (\pm 0.3)</math> 以下、幅 <math>75 (\pm 7.5)</math> 以下</p> <p>c. 接着剤 種類：前記の中張り材取付け用接着剤と同じ 塗布量 (<math>\text{g}/\text{m}^2</math>) : <math>300 (\pm 30)</math> 以下</p> <p>取付け方法 上記 a から c のいずれかで中張り材に取付ける。</p>
	壁端部 (柱・はり等との取り付け部) の仕様及びその処理材 (充てん材)	<p>下張り材、中張り材又は上張り材のいずれかに、あるいはこの内の二者又は三者に目透かしを設ける場合は、それぞれの目透かし幅は <math>10 (\pm 1)</math> mm 以下とする。下張り材、中張り材及び上張り材の目透かし部には、次の a から c のいずれかを充てんする。</p> <p>充てん厚さは、下張り材は <math>21 (\pm 2.1)</math> mm 以上、中張り材は <math>21 (\pm 2.1)</math> mm 以上、上張り材は <math>21 (\pm 2.1)</math> mm 以上とする。</p> <p>a. シーリング材 種類：下記のいずれかによる。 ポリウレタン系、アクリル系、アクリルウレタン系、ポリサルファイド系、ポリイソブチレン系、シリコーン系又は変成シリコーン系</p> <p>b. ロックウール、ロックウール保温板、ロックウールフェルト、ロックウールモルタル又はグラスファイバーフェルト 密度 (<math>\text{kg}/\text{m}^3</math>) : <math>10 (\pm 1)</math> 以上</p> <p>c. せっこう系又は炭酸カルシウム系無機質充てん材</p>

4. 構造説明図

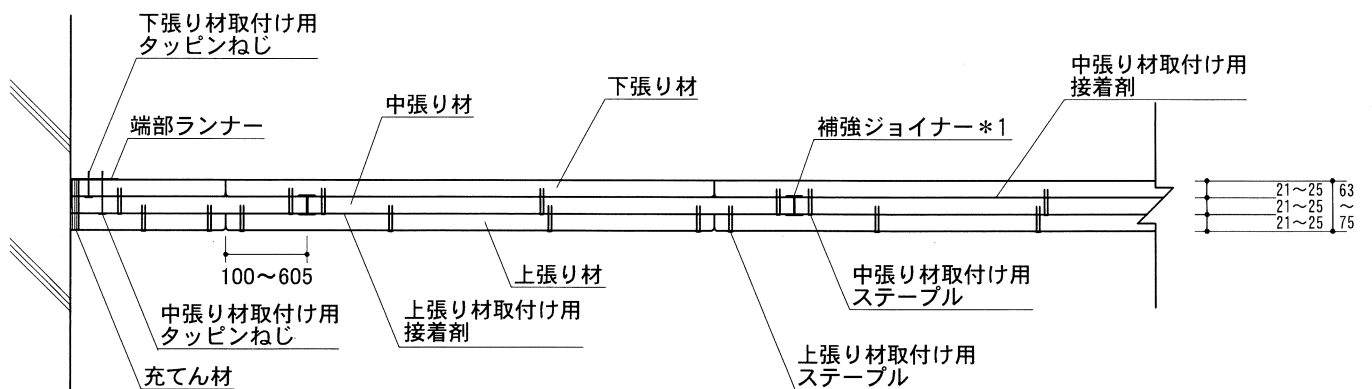
(1) 透視図

(単位 : mm)



\*1 補強ジョイナーは必要に応じて取付ける  
形状 : 工 , 工 , 丁 等 (厚さ0.2mm以上)

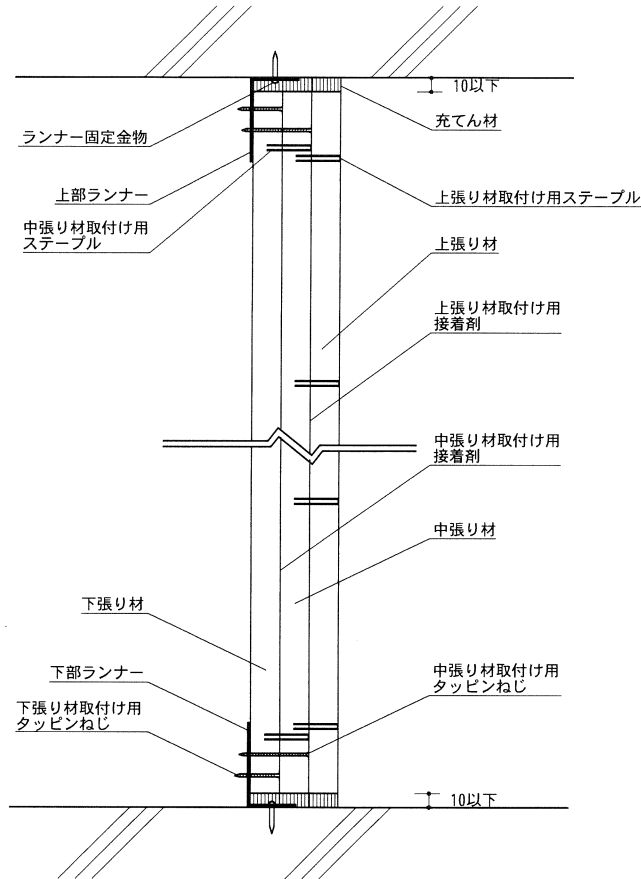
(2) 水平断面図



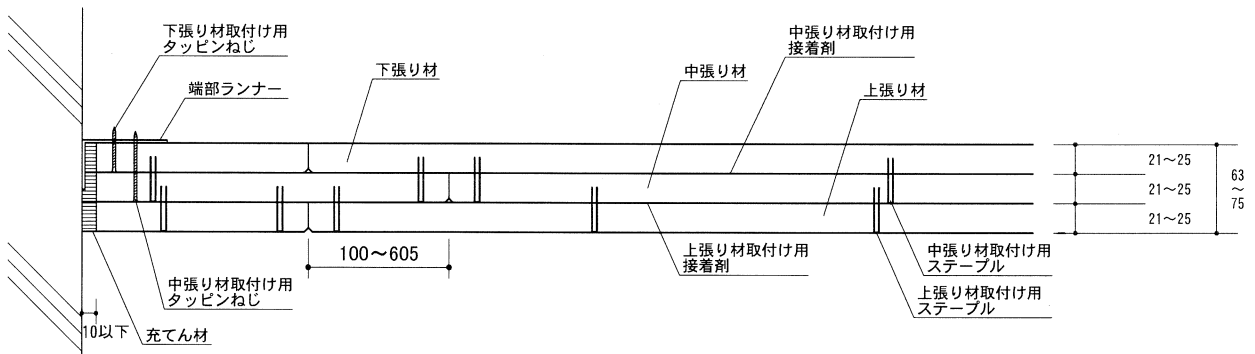
(3) 断面詳細図

(単位 : mm)

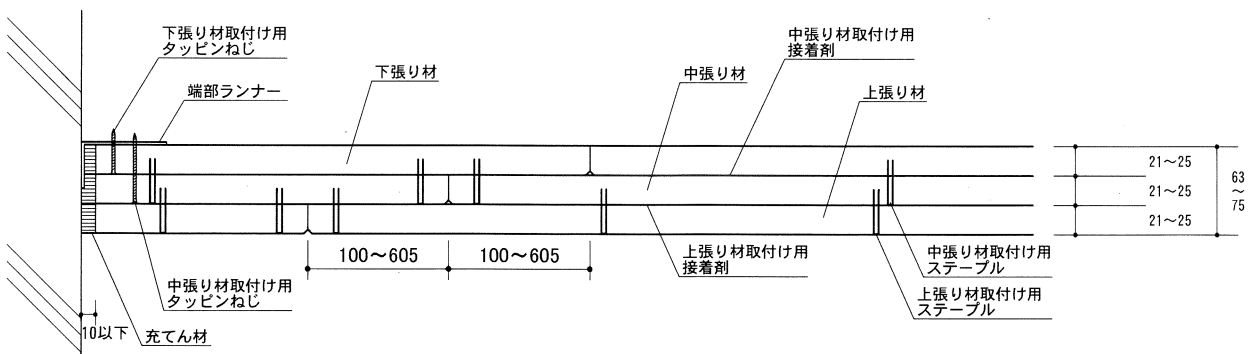
①補強ジョイナーを取付けない場合



①-1 上張り材と下張り材の縦目地が同位置となる場合

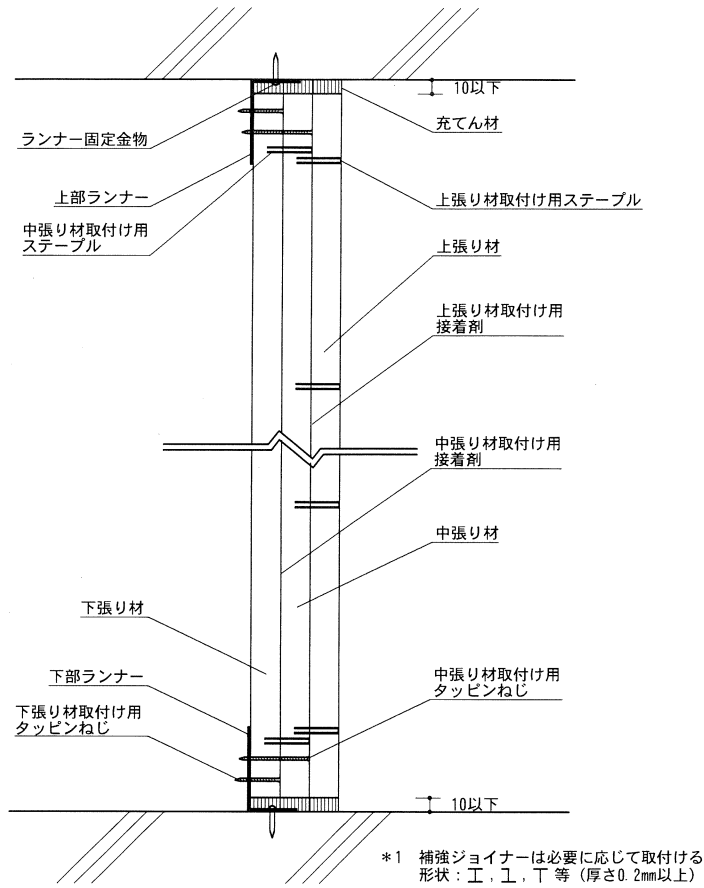


①-2 上張り材、中張り材、下張り材の縦目地が同位置とならない場合

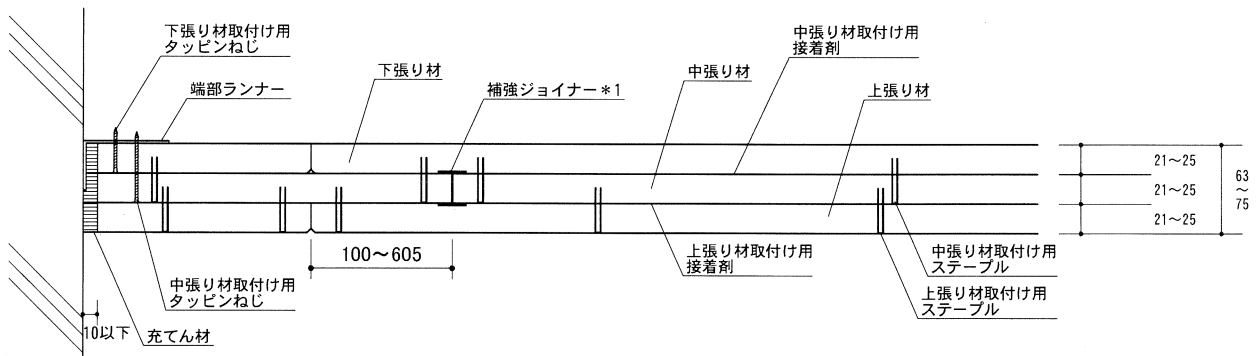


(単位 : mm)

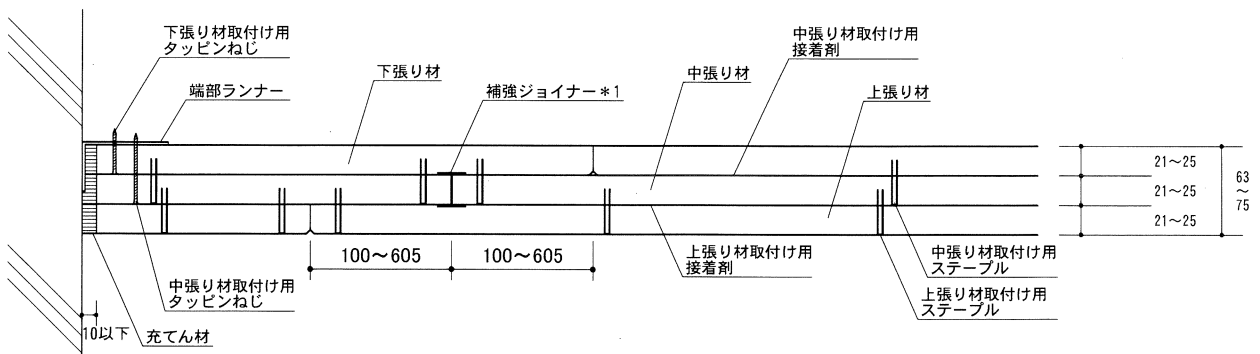
②補強ジョイナーを取付ける場合



②-1 上張り材と下張り材の縦目地が同位置となる場合



②-2 上張り材、中張り材、下張り材の縦目地が同位置とならない場合



## 5. 施工方法

### (1) 下地材の取付け

下地材を取付ける位置に墨出しを行う。下地材は、躯体にランナー固定金物(打込みピン、ボルト、ねじ、くぎ、バッファーピン等)、或いは溶接にて(必要に応じてランナー受けピースを介して)、600(±60)mm以下の間隔で取付ける。

### (2) 下張り材の取付け

下張り材は、あらかじめ横目地ができないように現場の寸法に合わせて切断し、 $\phi 3.5$  mm以上×L32 mm以上のタッピンねじで300 mm以下の間隔で下地材に留付ける。

### (3) 中張り材の取付け

中張り材は、あらかじめ横目地ができないように現場の寸法に合わせて切断する。また、壁幅が使用するボード幅を超えるような場合で、縦目地を設ける場合は、その縦目地位置が下張り材の縦目地から100 mm以上、605 mm以下となるように配置し、 $\phi 3.5$  mm以上×L50 mm以上のタッピンねじで300 mm以下の間隔で下地材に留付ける。更に、接着剤(300~900g/m<sup>2</sup>)を併用して、幅4 mm以上、長さ32 mm以上のステープル又は $\phi 3.5$  mm以上×L32 mm以上のタッピンねじで、一方は300 mm以下の間隔で、他方は必要に応じて任意の間隔で下張り材に留付ける。

必要に応じて、中張り材相互の縦目地部に補強ジョイナーを挿入又は補強ジョイナー取付け用留付け材で留付ける。

### (4) 上張り材の取付け

上張り材は、あらかじめ横目地ができないように現場の寸法に合わせて切断する。また、壁幅が使用するボード幅を超えるような場合で、縦目地を設ける場合は、その縦目地位置が中張り材の縦目地から100 mm以上、605 mm以下となるように配置し、接着剤(300~900g/m<sup>2</sup>)を併用して、幅4 mm以上、長さ32 mm以上のステープル又は $\phi 3.5$  mm以上×L32 mm以上のタッピンねじで、一方は200 mm以下の間隔で、他方は必要に応じて任意の間隔で中張り材に留付ける。

必要に応じて、タッピンねじで600 mm以下の間隔で下地材に留付ける。

### (5) 壁端部の処理

下張り材、中張り材及び上張り材のいずれかに、あるいはこの内の二者又は三者に目透かしを設ける場合は、目透かし幅を10 mm以下とする。目透かしを設けた場合の下張り材、中張り材及び上張り材の目透かし部には、処理材(充てん材)を充てんする。充てん厚さは、下張り材、中張り材、上張り材共に21 mm以上とする。